

ジェンダーフリーなキャリア形成実現のための

ソーシャルサポート策

—コミュニティナースの有用性と課題の考察—

氏名 後藤 史子

指導教員 古賀 桃子

要旨：「夫は外で働き、妻は家を守るもの」という時代を経て、今や少子高齢化による人口減少が深刻化する中、労働人口の確保を視野に入れた女性の社会進出や活躍を応援する流れが約30年前から続いている。

1985年に男女雇用機会均等法が制定され、これを機に女性の教育や職場環境、ジェンダーバイアスの解消に関する制度改革が行われてきた。女性の地位向上や待遇の改善、休暇制度などの労働条件は向上してきたものの、責任のある立場とプライベートの両立は困難であると感じ、ライフイベントを意図的に制限したり、反対にキャリア形成を諦める人が今も存在する。仕事とプライベートの両立を実現するためには、日々の家事・育児・介護などの負担軽減サポートが必要である。

本稿では、キャリア形成を希望する人が活躍できるフィールドを準備するために、2024年10月に北九州市門司区で始まった「コミュニティナース」の事業に着目し、期待すべき役割および課題について考察した。

ESG経営や人的資本経営に関心が高まっている今、企業と医療専門職がコミュニティナース事業を共創することにより、ジェンダーフリーな活躍支援と社会課題解決とを両輪とする持続可能な仕組みとなる。企業における課題解決支援（人材確保）にも繋がるという考えの下、「ものづくりのまち」として発展してきた北九州市が、ジェンダーに関わらず働きやすい環境になるために、コミュニティナースが人と人を「つなぐ」ことによって形成される地縁やコミュニティを活用し、安全・安心なソーシャルサポートの提供体制を構築することが必要である。さらに、コミュニティナース事業は制度的な裏付けがなく収益性に乏しいため、類似事業のケーススタディも含め、持続可能性を高める方策の提言を行った。